

# 風土記の丘の花だより<sup>122</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2022年2月19日)

暖かい日があったかと思うと急に冷え込んだり、そんなことをくり返しながら少しずつ春に近づいているのでしょう。それにしても紅梅がやっと見頃、今年はウメが遅いです。アセビの開花も遅いです。寒い日が多かったからでしょうか。



足元では春の花が少しずつ咲き始めています。これはキンポウゲ科のヒメウズです。ヒョロヒョロした小さな花です。花びらのように見えるのは萼で、花びらはその中であって更に小さいです。「ヒメ」は小さいという意味、「ウズ」は漢字では烏頭と書き、トリカブトのことです。葉の形がカラスの頭に似ていると言われれば似ていますね。(ホンマかいな)



薄い水色の花はフラサバソウ。とても小さな花です。花はオオイヌノフグリの花をぎゅっと小さくしたような感じで、葉はオオイヌノフグリの葉に更に毛をいっぱい生やしたような感じです。この花は目立ちませんが、オオイヌノフグリよりも早く咲き始めるので、花の少ない時期の花だよりに何回か登場していますね。花木園でたくさん咲いています。



「何じゃこれは？」とお思いのことでしょう。これもこれまでに何度か登場した植物でも菌類でもない地衣類の仲間、モジゴケです。漢字で書くと「文字苔」。(でもコケではありませんよ。)初めてペンを持った子供が書いた、文字のような、落書きのような……。古い樹皮や石垣に張り付いています。



少し前の117号で、寅年にちなんで紹介したトラノオシダによく似たシダを紹介しました。チャセンシダです。どちらもチャセンシダ科ですから、似ているはずですね。トラノオシダほども多くありません。私も修復古墳周辺の石垣の間で偶然見つけました。チャセンは茶道で使う「茶筌」のことで、葉が落ちて軸だけになったらそれに似ているらしいです。でもまだ私はそんな姿を見たことはありません。 松下